

# ワークショップのご案内

2021年12月15日

経済研究所のご支援を頂き、高橋（朋）の短期プロジェクトによるワークショップを開催いたします。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

題目： **Optimal Taxation in an Endogenous Fertility Model with Non-Cooperative Couples**

報告者：小原 拓也（中央大学・商学部）

日時：2022年1月12日（水）14：30～16：00

場所：対面とオンライン併用

対面 青山学院大学 8号館6階 プレゼンテーションルーム

オンライン Webex

概要：本研究は、家計内での非協力行動が出生数を低下させる一つの要因であることを明らかにした **Doepke and Kindermann (2019)** の実証研究と統合的な理論モデルを構築し、効率性の観点からの政府の望ましい政策介入を考察した。主要な結果として、家族の非協力行動による出生数の低下を改善するためには所得課税が望ましく、子供に対する政策介入は子供補助ではなく、むしろ子供税が望ましくなることが明らかにされた。また、外部施設への補助は非協力行動による出生数の低下を改善するためには必要ないことも明らかにされた。

お問い合わせ先

青山学院大学経済学部 高橋朋一 [tomokazu@cc.aoyama.ac.jp](mailto:tomokazu@cc.aoyama.ac.jp)